

JA全農ウィークリー

2
面

「ザルビオ フィールドマネージャー」4月からサービス開始
(耕種資材部)

6面

プロフェッショナルを追う(1)
家畜衛生研究所クリニック東日本分室獣医師 宮野安奈さん(広報・調査部)



現場に出向き農場の状態を観察する家畜衛生研究所クリニック東日本分室獣医師の宮野安奈さん(6面)

- 2 土づくりの重要性伝える動画を
YouTubeで公開(九州営農資材事業所)
- 3 ニッポンエールの新商品「こめカリッ」
5種類を発売(営業開発部、全国農協食品(株))
- AgVenture Labが
「JA Innovator's Boot Camp」
成果発表・表彰式を開催(経営企画部)
- 4.5 令和2年度 各事業の主な取り組み(最終回)
営業開発／輸出事業／総合エネルギー事業／
くらし支援事業／フードマーケット事業
- 7 JAブームイン(三重: JA伊勢)



『JA全農トピックス』の
ツイッターはこちらから



ニッポンエールの新商品、米粉で作ったかりんとうの「こめカリッ」
5種類(3面)

- 8 東北地方の飲食店やホテルで
「TOHOKU SALADーとうほくサラダー」
提供(全農東北プロジェクト)
- 「JA全農 COUNTDOWN JAPAN」
プレゼント(広報・調査部)
- JAタウンショップ紹介
- JA香川県さぬき旬彩館

別冊 ①-⑥ 令和3年度JA全農講習会日程

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web
限定

第4回和牛甲子園出品牛を地元の復興マルシェで販売(宮城県本部)

News!



「ザルビオ フィールドマネージャー」4月からサービス開始

オンラインセミナーも開催

耕種資材部

オンラインセミナーでは栽培管理支援システム「ザルビオフィールドマネージャー」と生産者インタビューを紹介



どうすれば農業はもっと効率的になるのか?

xarvio® FIELD MANAGER
オンラインセミナー開催

参加費
無料

2021年 **4/1** (木) 13:00~15:00

共催：全国農業協同組合連合会
www.zennoh.or.jp

BASFジャパン株式会社
アグロソリューション事業部
crop-protection.basf.co.jp
0120-014-660



セミナー参加申込・
詳細はこちら

詳細と参加登録は
こちら



ザルビオフィールドマネージャーの最大の特長は、高精度な予測を実現するために国内外の生育に関するデータと学術論文の文獻データを基に機械学習によって強化されたAIが搭載されており、生産者の皆様の栽培管理上の意思決定をサポートできます。営農管理支援システム「Z-GIS」とデータ連携し、Z-GISの利用者は面倒な圃場登録作業が不要で、速やかに営農の全体状況を精密かつ効率よく把握することができます。4月1日13時からオンラインセミナーを開催しますので、ぜひご参加ください。

全農はBASF デジタルファーマーミング社と4月1日から「水稻」「大豆」を対象にAIを活用した栽培管理支援システム「ザルビオフィールドマネージャー」のサービスを開始します。

News!



土づくりの重要性を伝える動画をYouTubeで公開

漫画やチラシも作成して配布中

九州営農資材事業所

啓発動画では、土づくりに鋭意取り組む担い手生産者3人に話を聞きました(動画の一場面)



啓発動画は
こちらで公開中



動画では、農業で最も重要な「土づくり」の大切さをプロの生産者にインタビューし、農業現場の生の声を紹介しています。地力向上によって、さらなる農産物の品質と収量をアップを目指す「土づくり運動」を盛り上げるため、これからも九州営農資材事業所では土づくりの重要性を伝えるさまざまな資料をリリースしていきます。また、土づくり動画だけでなく、啓発漫画や啓発チラシも作成し、生産者やJA関係者に向けて配布しています。土づくりの重要性を喚起するため、土づくりの現場でご利用ください。

全農九州営農資材事業所は、産地振興や農家手取り最大化を達成することを目的に、土づくりの重要性を啓発する土づくり動画を作成しました。この動画は全農耕種資材部のYouTube動画で公開しています。



ニッポンエールの新商品「こめカリッ」5種類を発売

米粉でかりんとう、全国農協食品と共同開発

営業開発部、全国農協食品(株)

営業開発部と全国農協食品株式会社は3月8日、共同開発したニッポンエールの新商品「こめカリッ」を、全国のスーパー・コンビニなどで発売しました。

こめカリッは米粉を使用した「かりんとう」で、国産農産物の素材をフレーバーとして使います。使用する米粉は、米粉の普及に向けた取り組みを積極的に行っている新潟県産米で、平成29年に業務提携した木徳神糧株式会社の新潟製粉工場で製粉しました。油を吸いにくいため、さっぱりとヘルシー

に仕上がった「かりんとう」に沖縄県産の黒糖や京都府産の宇治抹茶など、国産農産物のフレーバーを添加しました。フレーバーには黒糖、宇治抹茶のほか、タマネギ、ニンニク、南高梅など、米粉生地と相性のよい素材を厳選し、5種類それぞれに風味豊かな味わいがお楽しみいただけます。



ニッポンエールのサイトはこちら



今後、営業開発部と全国農協食品は加工食品の共同開発を進め、国産農畜産物を消費者の皆さまにお届けするとともに、国内農業の振興を図っていきます。



AgVenture Labが「JA Innovator's Boot Camp」成果発表・表彰式を開催

各連の枠を超えたJAグループの新規事業案を提案

経営企画部

AgVenture Labが令和2年10月末から全7回にわたって実施した、未来のJAグループを担う人材育成、マインドチェンジ、系統間の連携強化を目指す取り組み「JA Innovator's Boot Camp (イノベーターズブートキャンプ)」の成果発表・表彰式を3月9日に開きました。

プログラムに参加したJAグループ全国連の若手・中堅職員32人は、外部講師による講義やワークショップを経て、同じ課題意識を共有した参加職員が各連混成の8チームを編成し、各連役員と全国農協青

年組織協議会の田中圭介会長に向けて、各連の枠を超えたJAグループの新規事業案を提案しました。本プログラムは今年度から始まり、今年度は下期だけの開催となりましたが、来年度も開催を予定しています。



各連の枠を超えたJAグループの新規事業案を提案した皆さん



グループワークの様子

令和2年度 各事業の主な取り組み

最終回 営業開発／輸出事業／総合エネルギー事業／
くらし支援事業／フードマーケット事業

営業開発部

「ニッポンエール」のブランディングと商品開発

全農グループの商品のブランディングを進めるため、昨年1月、新たな商品ブランドとして「ニッポンエール」を商標登録しました。ニッポンエール商品は、生協や量販店をはじめ、JR東日本のエキナカ店舗New Daysやファミリーマートなどのコンビニにも採用され、商品の一つである「加賀野菜チップス」はセブン-イレブンの東京・北陸地区でヒット商品となっています。また、海外でも商標登録を進め、中国、香港、シンガポール、欧州連合(EU)では登録が完了。香港ではCity Superや香港MUJIで販売を始めています。台湾、韓国、タイ、イギリスでも商標を出願中です。

ニッポンエール商品は、「全農グループMD部会」における令和2年度の商品開発数68品のうち59品を占めており、今後は伊藤園と共同で「ニッポンエールプロジェクト」を立ち上げ、商品売上の一部を産地に還元することで産地貢献にも取り組みます。



ニッポンエール商品

輸出対策部

全農グループ各海外拠点の機能発揮

コロナ禍でも、国産農畜産物の輸出拡大に向け、新拠点設立や海外小売・卸等との業務提携を進めています。大消費市場である中国に昨年8月、全農(上海)貿易有限公司を新設し、将来の中国の輸入規制緩和を見据え、外食・量販・卸等との事前協議を進めています。また、香港拠点では昨年11月、香港食品大手の四洲集团有限公司と連携し、日本米炊飯センターを稼働させ、プレミアム感あるオフィス宅配弁当事業を開始し、さらに学校給食での日本産米提供も視野に入れています。米国拠点では、外食需要の激減した和牛をeコマース企業などを活用して販売拡大、前年実績を大幅に上回る実績を確保しています。また、アジアを中心にスピーディーな新規開店を進めるPPIH(ドンキ・ホーテ)グループとは、全農グループ海外各拠点が連携し、各店向け輸出量を急速に伸ばしています。

新年度4月には、「第1回輸出事業委員会」を立ち上

げ、JAグループ一丸となった国産農畜産物のさらなる輸出拡大に努めていきます。



米国での食肉包装の様子

自家消費型太陽光発電設備でPPAモデル実証

(株)エーコープ関東の協力の下、群馬県内JAファーマーズ3店舗に太陽光発電設備を設置(3月末完工)し、自家消費型太陽光発電設備PPAモデル実証に取り組みました。当部が機器選定、設備所有、維持費負担し、JAファーマーズ店舗へ太陽光発電設備で発電した再生可能エネルギー(再エネ)電力を販売します。100%再エネである太陽光発電を発電場所でそのまま利用するため送電・変換ロスが少なく、地球温暖化ガス排出量削減効果がより大きくなります。導入者に初期投資や維持費等の負担がないため、迅速に再エネ利用を拡大できる効果があります。実証モデルには蓄電池システムも導入し効果を検証します。

※PPA Power Purchase Agreementの略。発電設備を購入(またはリース)するのではなく、第三者が保有し電力需要家に売電する電力供給契約のこと。



屋根上部に太陽光発電設備を設置

くらし支援事業部

農泊事業推進とファーマーズ型店舗の出店

地域活性課は令和元年度より農泊事業に取り組んでいます。進めるポイントは①空き家を宿泊施設にリノベーションし、組合員や地域JA(家主不在型)が運営、②JA施設や農業体験と連携することでの地域活性化、経済的効果の2点です。農林中央金庫、(株)農協観光、(社)日本ファームステイ協会と連携し、初心者でも事業が始められる環境を整えています。令和3年度には運営モデル地域での事業開始を予定している他、ポータルサイト「農泊net」で宿泊予約ができるようになりました。

店舗事業課は農産物直売所とAコープ店舗を一体化した「ファーマーズ型店舗」の出店を進めています。本年度は群馬・長野・広島・佐賀で4店舗を

出店し、全国で32店舗展開しています。また、昨年12月には「全国Aコープ協同機構SDGs対応方針」を策定しました。これまで以上に環境対策・社会貢献に取り組み、農家組合員や消費者、取引先から信頼されるお店づくりを進めます。



Aコープファーマーズみやうち(広島)

フードマーケット事業部

コロナ禍の中、eコマース・飲食店舗でさまざまな取り組み

eコマース事業では、外食需要減などによる農畜産物滞留を解消したい産地ニーズと、消費者側の旺盛な果ごもり需要をマッチングさせられるよう、県本



みのるダイニング札幌ステラプレイス

部・各事業部と連携し野菜BOXの出品促進や発送期間の短縮、行政支援策の活用などにより取扱額拡大や廃棄回避に貢献することができました。

もう一つの柱である飲食店舗事業運営では、感染防止対策、メニュー更新、各種フェアの開催など、このコロナ禍の中で国産農畜産物をできるだけ多くのお客さまに食べていただけるよう、さまざまな工夫を積み重ねています。さらに、令和2年5月には札幌、6月には佐賀への出店、今年4月にはJR熊本駅、JR博多駅の両ビル内への新規出店を進めるなど、地域の農畜産物のおいしさを消費者へアピールし続けていきます。

プロフェッショナルを追う(1)

家畜衛生研究所クリニク東日本分室獣医師、宮野安奈さん

病気にかからぬ予防策提案

全農グループには専門的な業務に従事している職員がいます。今回は、家畜衛生研究所クリニク東日本分室の獣医師、宮野安奈さんに迫ります。

【広報・調査部】

——家畜衛生研究所について教えてください。

家畜の予防衛生に関わる部署で、疾病予防のための技術・商

品開発を行う研究開発室、家畜や畜産物の衛生検査を行うクリニクセンターと農場での生産指導を行うクリニク分室があります。

す。分室は北海道・岩手・東京・岡山・福岡にあり、私は東日本分室（東京）に勤務しています。

関係機関と連携し農場で疾病対策

——仕事の主な内容は？

生産現場の生産性向上のサポートを行うことを目的に、農場での疾病対策に携わることが多いです。JAや地域別飼料会社、県本部などのJAグループ関係者からの要請で農場を訪問し、農場での病気の状態や衛生管理の状況を把握した上で、必要に応じて検査を提案します。検査は、血液・糞便・鼻汁スワブなどを採材してクリニクセンターへ検査を依頼し、検査結果を活用しながら、農場の状況に応じた衛生対策の提案を行っていきます。生産者さんとJAグループ関係者を対象に、衛生に関する勉強会の講師を務めることもあり、予防衛生の大切さを伝えています。

——予防衛生とは？

例えば肉牛の場合、生まれてから食肉になるまで30カ月近くかかります。人間も動物も子どもころは体力もないし、免疫も未熟で弱い。病気にかかるとう生育が停滞したり、治療にコストがかかったりしますし、何より生産者の方々の精神的ストレスが大きく、さまざまな影響があります。いかに病気などにかからずに育てるか。以前に比べて予防に重きを置く生産者の方が増えてるように思います。

農家と一緒に取り組み現れた成果に手応え

——やりがいは？

この仕事は何か対策を行えば劇的に改善するといふことばかりではありません。でも農家さんと一緒に取り組んで、小さいながらも成果が出たという話を聞くとやりがいを感じます。また、クリ

ニク分室は全国にあるので他県の事例を知ることできるし、飼料のことで分からないことがあれば同じ畜産生産部にある飼料畜産中央研究所、繁殖のことならET研究所に聞くこともできます。専門機関が連携して総合的に対応できるJAグループの強みの一員であることにもやりがいを感じます。

——JAの担当者との連携も大事ですね。

牛の場合はJAの担当者を通じて農家さんとお話することも多いです。日々生産現場を巡回しているJAの担当者だからこそ分かる変化や課題を伝えていただけると、より精度の高い提案ができます。

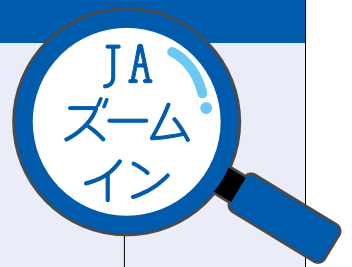
農家ごとに解決策を提案しレベルアップ

——今後の抱負は？

一番は個々の農家さんごとの解決策をどんどん提案して、全体的なレベルアップのお手伝いができればいいなと思っています。JAグループならではの総合力を生かし、さまざまな方面からのアプローチで各農場の課題について提案できるようになれたらと思っています。



現場に出向き農場の状態を観察する宮野さん



販路拡大とブランド力向上へ

農産物輸出拡大にも取り組む

JA伊勢は、2019年4月に合併し、伊勢市・鳥羽市・志摩市・尾鷲市・熊野市・玉城町・度会町・南伊勢町・大紀町・紀北町・御浜町・紀宝町の広大なエリアを管轄としています。温暖な気候と肥沃な大地



ミカン輸出検査



ミカンのワックス処理義務化を受け導入したワックス塗布機

の恵みを受け、管内では多種多様な農畜産物が生産されています。

タイかんきつ輸入解禁を機に2010年から輸出スタート

県の最南端に位置する三重南紀地区(旧JA三重南紀)では、ミカンの国内販売の低迷が続いていた中、タイ王国が2007年に日本産かんきつの輸入を解禁したことによりいち早く着目し

た。

新たなマーケット獲得のチャンスととらえ、2008年度から検疫条件対応などの準備を開始し、販路拡大と国内での「三重南紀みかん」のブランド確立、知名度向上による農家所得の増大を目的に、2010年から早生温州ミカン、2012年から中晩かん「不知火」「せとか」の輸出を開始しました。

輸出後は、役員らがタイ王国を毎年訪問し、バンコク市にあるタイ農業・協同組合省と情報交換を行ったほか、量販店で現地の買い物客らに「三重南紀みかん」をPRしました。それらが実を結び、輸出開始以降、順調に輸出量を伸ばしてきました。しかし、2015年から

JA伊勢(三重県)



概要

令和2年3月31日現在

正組合員数	2万3086人
准組合員数	2万3839人
職員数	983人
販売品取扱高	70億5千万円
購買品取扱高	63億5千万円
貯金残高	4516億7千万円
長期共済保有高	1兆1553億4千万円
主な農産物	米、青ネギ、イチゴ、花き、畜産、茶、温州ミカン



輸出用次郎柿(真空パック)

輸出用のイチゴバック

の植物検疫官による合同検査が必要だったが、2020年5月から、年に一度のタイ検疫官の査察制へと条件が緩和されました。今年度は、ワックス塗布作業を効率化する装置を導入しました。今後は、輸出認定園地の広域化と輸出品種の拡大を目指します。

新たにイチゴ、次郎柿の試験的輸出開始、拡大へ

また、新たな販路の拡大や産地のPRを図ろうと、管内で盛んに栽培されているイチゴを台湾へ、次郎柿を香港へ試験的に輸出を開始しました。

今後、現地のニーズに応じて、農産物の輸出に取り組んでいきます。



東北地方の飲食店やホテルで「TOHOKU SALAD—とうほくサラダ—」提供

全農東北プロジェクトは東北観光推進機構と連携し、東北の食材を使用した「TOHOKU SALAD」を企画し、4~9月の「東北デスティネーションキャンペーン」(東北DC)期間中に、東北地方の飲食店やホテルなどで統一コンセプトのオリジナルメニューを販売します。【全農東北プロジェクト】



このロゴマークのある
お店でお楽しみいただ
けます

とうほくサラダは、全農東北プロジェクトの青森県本部メンバーが提案し、東北DCと連動することができました。東北の食材を通して東北の魅力をPRするとともに、東北の食材への理解促進と消費拡大を目指します。

東北DC期間中、東北域内の各店がアイデアを凝らしたオリジナルメニューを提供しますので、ぜひ期間中に東北の美味しいサラダをお試しください。「 Grillみなの」「みのりカフェ」(エスパル仙台店)では3月中から先行してプレキャンペーンを始めています。

※東北DCとは…JRグループと自治体・観光関係団体などが一体となった大型観光キャンペーンです。期間中、さまざまなメニューを用意して、国内外からお越しの皆さまをお迎えします。

※TOHOKU SALADとは…野菜、フルーツ、魚介類、肉など、東北産の食材をメインに使用したサラダです。



TOHOKU SALAD「みのりサラダ」
(エスパル仙台店)



毎週土曜日13時~ TOKYO FM系列38局ネット

全農 ZEN-NOH

COUNTDOWN JAPAN リスナープレゼント

3月27日放送のプレゼントは、「ぎふの米『美濃ハツシモ』5kg(令和2年度産)」です。

岐阜の「ハツシモ」は、大粒で歯応えがしっかりとしたお米です。粘りは少なめでサッパリとした食味が特長です。一年を通じて食味の低下が少なく、白飯はもちろんのこと、すし飯としても高い評価を得ています。

豊かな自然に恵まれた清流の国岐阜県で、生産者の方が丹精こめて丁寧に育てたお米です。どうぞご賞味ください。

また、JAタウンギフトカード4500円分を1名様にプレゼントします。

【広報・調査部】



応募は番組ホームページで受付中です。



応募締め切りは3月27日の放送でランキング1位の曲が発表されるまでです。

この商品はここからご購入いただけます。

JAタウン
ショップ名

飛騨・美濃うまいもん広場



JA全農のインターネットショッピングモール

JAタウン ショップ紹介

JA香川県さぬき旬彩館

瀬戸内の温暖な気候に育まれ、太陽の光をいっぱい浴びた香川県オリジナル品種「さぬきひめ」は、「たくさんの人にかわいがってもらいたい」との願いを込めて名付けられました。

光沢のある果肉は柔らかな食感で、果実は大きく、やや丸みを帯びたおむすび型。まるまるとした愛らしい形は、ひと口食べれば果汁があふれるほどジューシーです。甘さと深みのある香りが口の中に広がります。

自信を持ってお届けする「さぬきひめ」を、どうぞ皆さんでお楽しみください。



苺「さぬきひめ」2L 1kg……4180円(税込み)

※別途クール便代がかかります

▶ JAタウンはここから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☐ shop@ja-town1.com

ご注文は
こちらから

